



青柳小学校だより

令和2年度-12号

仲よく やりぬく たくましい子

令和2年(2020年) 10月26日発行 文責 校長 山本 剛

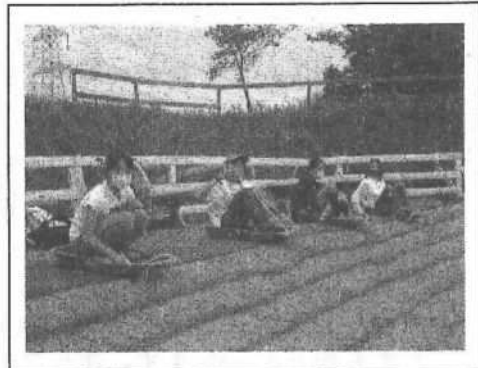
秋晴れの中、6年生の校外学習を実施する

10月16日(金)に6年生の校外学習を実施しました。当日は秋晴れの中、予定通りの活動を行うことができました。

【平和祈念館で調べ学習】



【ブルーメの丘で芝すべり】



今年度の高島市の小中学校の修学旅行は、児童生徒の命と健康を守ることを最優先に考えるべきと判断し中止となりました。そこで、様々な感染症対策を取りながら、滋賀県内での校外学習を実施しました。行先は、滋賀県平和祈念館(東近江市)、ブルーメの丘(日野町)、大津プリンスホテルでした。午前8時に学校を出発しました。平和祈念館では、木村大喜(指導主事)から①戦地に行った人たち、②戦時の子どもたち、③戦時の暮らし、④滋賀への空襲の4つのことについてお話を聞きました。平和学習というと、広島や長崎のことが特化されますが、滋賀県にも大きな被害や影響があったことがわかりました。

- ・滋賀県からは約9万人以上の方が兵士として戦場に行った。そのうち、39,592人の方が戦死した。
- ・滋賀県には、大阪から約12,000人の子どもたちがやってきた。国民学校3年生から6年生の子どもたちが中心であった。(学童疎開)
- ・舟木飛行場(現在は、滋賀県立びわ湖子どもの国)は八日市飛行隊が饗庭野で訓練する際の着陸場として作られた。海軍のグライダー訓練や特攻の訓練も行われ、空襲の記録もある。
- ・その他、臨時召集令状(赤紙)、従軍看護婦、焼夷弾、金属供出、滋賀への空襲のことなど。

午後からは、ブルーメの丘でグループ別に芝すべり、アーチェリー、木製迷路等で楽しみました。さらに動物とふれあい、その後お土産を買いました。さらにプリンスホテルに移動し約1時間30分をかけて、テーブルマナーを学習しながらの夕食となりました。ナイフ、フォーク、スプーン合わせて10本を使いながら、講師から食事のマナーを教わりました。デザートを含めて5種類の料理を堪能しました。将来に役立つ学習になったように思います。

帰校は予定より30分遅れの午後8時30分になりました。残念ながら泊を伴うことはできませんでしたが、充実した一日になったと思います。

6年生の保護者のみな様には、送迎を含めて何かとご協力をいただきました。天候にも恵まれ、予定通り校外学習を実現できたことに対して厚くお礼申し上げます。

【6年生校外学習の感想より・敬称略】

・どこにも行けないと思っていたけれど、行くことができてよかったなと思いました。県内でも色々な経験ができたと思います。

平和祈念館では、知らないことをたくさん知ることができました。一番印象に残ったことは、女性でも戦地に行くことがあるということです。今回、教えてもらうまで、男性しか戦地に行くことがないと思っていたので、とても印象に残っています。

ブルーメの丘で一番楽しかったのは、アーチェリーです。初めて挑戦したけれど、やっていくうちにどんどん慣れていきました。端の方だけど、的に一回当たってうれしかったです。また、お土産を買う時は、結構色々な物があってすごく悩みました。もう少しお金を持ってきていっぱい買いたいなと思いつつ、買っていました。

大津プリンスホテルでは、知らなかった食事のマナーを知ることができました。例えば、ナイフとフォークは端から使うこと等です。料理では、前菜の「鶏胸肉の冷製とソフトサラミのコンソメゼリー寄せ生ハム添え香草風味ピネグレットソース」が一番おいしかったです。()

・平和祈念館で初めて知ったことは、びわ湖で水上訓練をしていたということでした。僕は戦争でびわ湖は関係していないと思っていました。今はコロナウィルスが世界に広がっているけれど、戦争の時はデング熱が流行していたことも知りました。

ブルーメの丘では、望天くん、宏樹くん、麻希くんの四人のグループで行動しました。最初は芝すべりで、誰が一番遠くまでこげずに行けるか勝負しました。とても楽しかったです。次にアーチェリーをしました。難しかったけれど、十本中三本が的に当たりうれしかったです。木製迷路では、スタンプラリーで、全部スタンプが押せて楽しかったです。

大津プリンスホテルではテーブルマナーを学びました。フォークとスプーンとは外側から取っていくことを学びました。料理がとてもおいしかったです。メインディッシュのハンバーグステーキには、ごはんがほしかったです。一日だったけれど、とても楽しかったです。()

青柳コミュニティ（AC）の活動も始まる（稲刈り）

今年度はコロナウィルス感染症拡大防止のため青柳コミュニティの活動も実施できていませんでした。例年ならば、田植えやドッジボール大会が行われるはずでした。ようやく、10月3日（土）の稲刈りから活動が始まりました。

当日は大人と児童合わせて19名の参加がありました。黄金色に実った、「秋の詩（滋賀62号）」という品種の稲を鎌で刈り取りました。参加した多くの人が初めての経験でしたが、約1時間で作業を完了することができました。

ACの正式の名称は青柳学区青少年育成コミュニティです。また、キャッチフレーズは「私のふるさと ホッと青柳」です。18年の歴史があり、土曜日、日曜日の子どもの健全育成を目的としたものです。4部会からなり、米づくり体験、創作活動、教養・スポーツ、広報・環境です。今年度は、活動が縮小されましたが、参加した子どもたちにとっては貴重な体験になったと思います。11月には、創作活動部会による物づくりが行われる予定です。どんな物づくりが行われるか楽しみです。

ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

